

【テーマ】

「在宅療養におけるがん終末期患者の介護のつらさと
その死後に与える影響」

【申請者】

訪問看護ステーションすまあと北支所 畑ゆかり

【助成対象年度】

2013 年度後期一般公募「在宅医療研究への助成」

感想

2012 年～2013 年にかけて私たちは、終末期の在宅療養者の家族のつらさについて、量的研究を行いました。その際、つらさに関してのデータを得ることができた一方、そのつらさがその後遺族にどのような影響を与えているのかという疑問が残りました。そこで、アンケート研究には反映されない遺族のさまざまな思いに関して、インタビュー研究を通して検討したいと考え、今回助成申請を行い、研究に取り組みました。

研究を終えて、私たちが想像していた遺族の思い・介護に対する振りかえりとは、一部違った内容をインタビューから読み取ることができましたので、この場を借りて報告させていただきます。私たちが、訪問看護師として家族ケアに携わっていく中で、留意していくべき内容が今回の研究で示されました。この内容をケアに活かしていくことで、終末期の在宅療養の家族ケアがより充実したものになると感じております。

訪問看護ステーションは、私どものように小規模の施設が多いと思われ、研究に関しての援助が得られにくい環境下にあります。そのような状況におきましても、助成制度が利用できれば、様々な研究に取り組むことができますので、とても有意義であると感じました。今後も在宅医療に関する研究を続けていき、少しでも在宅における患者・家族のケアの向上に活かしていきたいと思っております。

今回は、本当にありがとうございました。

本文

【テーマ】「在宅療養におけるがん終末期患者の介護のつらさとその死後に与える影響」

【目的】在宅療養におけるがん終末期患者の介護のつらさが死別後に与える影響を明らかにすること。

【方法】当訪問看護ステーションの訪問看護師が看取りに関わった遺族のうち、同意の得られた 8 名に半構造化面接を行った。質問内容は、「介護体験のつらさ」「後悔につながっているつらさ」「肯定的影響につながっていること」「つらかったときの介護者の支え」とし、内容を逐語録にして内容分析を行い、目的にそってコード化し、類似性にあわせてカテゴリー化した。

【結果】遺族は看取り後中央値 34 ヶ月[12-37]が経過していた。「介護体験のつらさ」「後悔につながっているつらさ」は、十分介護をやったと思えない自己不全感や、もっと甘えてほしかった等の「患者の言動」であった。「肯定的影響につながっていること」は、患者の安楽、介護者自身のがんばり・自己成長といった自己肯定感、家族間の連携、患者の存在の再認識であった。「つらかったときの介護者の支え」は、医療者・家族同士・患者自身との関わりであった。

【考察】在宅療養におけるがん終末期患者の介護の体験は、自己不全感が、つらさや後悔につながり、患者の安楽や介護者自身の介護に対するがんばりが、肯定的影響を高めることが分かった。また、介護に携っている医療者・家族同士・患者自身との関わりが、つらかった時の支えとなっていることが分かった。

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成により、今回の研究に取り組み、第 20 回日本緩和医療学会にこの演題を提出した。

次頁以降に、アンケート用紙内容、アンケート集計結果、インタビュー内容、インタビュー研究集計・分析結果の資料を添付した。

【在宅療養を体験した、ご家族を対象としたアンケート調査用紙】

I 最初に、あなたご自身について伺います。

* () には数字をお書きください。性別、関係の質問には、当てはまるところに○をお書きください。

○ 年齢

| |
|----------|
| () |
|----------|

 歳

○ 性別

| | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

○ 患者さんとの関係

| | | |
|--------|----------------|--------|
| 1. 配偶者 | 2. あなたは患者さんの子供 | 3. 婿・嫁 |
|--------|----------------|--------|

| | | |
|---------------|---------|--------|
| 4. あなたは患者さんの親 | 5. 兄弟姉妹 | 6. その他 |
|---------------|---------|--------|

○ 患者さんは何人暮らしでしたか。

| |
|----------|
| () |
|----------|

 名

○ 介護にかかわっていたご家族は、何名ですか。

| |
|----------|
| () |
|----------|

 名

*ここからの質問に関しましては、表紙の記入例を参考に、当てはまるところに○をお書きください。

II 患者さんの在宅医療中に感じたあなたの思いについて伺います。

1. 在宅療養中、訪問看護師の対応はあなたからみて、どの程度改善が必要と感じられましたか。

| | | | |
|------------|-----------------|------------------|------------------|
| 1. 改善は必要ない | 2. 改善が必要な点が少しある | 3. 改善が必要な点がかかりある | 4. 改善が必要な点が非常にある |
|------------|-----------------|------------------|------------------|

2. 在宅療養を通じてのできごとは、あなたにとって、どのくらいつらく感じられましたか。

| | | | | |
|--------------|---------------|------------|----------|-------------|
| 1. 全くつらくなかった | 2. あまりつらくなかった | 3. 少しつらかった | 4. つらかった | 5. とてもつらかった |
|--------------|---------------|------------|----------|-------------|

Ⅲ 患者さんが在宅療養を受けていたときのあなたの状況について伺います。

| あなたは | |
|--|--|
| 1.在宅療養をはじめた頃、仕事をしていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2.最後の2週間、仕事をしていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3.持病を抱えていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4.上記3で1.はいと答えた方へおききします。 あなたの持病は、どのようなものですか？ | 1. がん 2. 心臓の病気 (血圧の病気も含む) 3. 脳や血管の病気 4. 肺の病気 5. 骨や筋肉の病気 6. その他 |
| 5.在宅療養をはじめた頃、あなたの健康状態はいかがでしたか？ | 1. よかった。看病、介護に支障はなかった 0. 悪かった。看病、介護に支障があった |
| 6.最後の2週間、あなたの健康状態はいかがでしたか？ | 1. よかった。看病、介護に支障はなかった 0. 悪かった。看病、介護に支障があった |
| 7.在宅療養をはじめた頃、夜眠れていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 8.最後の2週間、夜眠れていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 9.介護を放棄したいと思ったことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 10.患者さんが、夜間トイレに行ったために、介護がっらいと思われましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 11.患者さんが、転倒したために、介護を続けるのが難しいと思ったことがありますか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 12.患者さんが、食欲がないために、何を食べさせたらよいかわからなくなったことがありますか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 13.介護を代わってくれる人(家族等)がいましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 14.介護をしながら、趣味の時間をもつことができましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

| | |
|---------------------|--------------|
| 15.相談できる人がいましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 16.経済的不安はありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 17.看取りの時に、そばにいましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

IV あなたのお考えについて伺います。

| | |
|---|--------------|
| あなたは | |
| 1. 日常生活に支障がない時期、患者さんを自宅で看取りたいと思っていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. <u>最後の2週間</u> 、患者さんを自宅で看取りたいと思っていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3. 在宅療養を始めた頃、入院をさせたいと思ったことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4. <u>最後の2週間</u> 、入院をさせたいと思ったことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5. あなたにとって、亡くなるまでの療養生活は、予想していた通りのものでしたか？ | 1. はい 0. いいえ |

V 患者さんのお考えについて伺います。

| | |
|---|--------------|
| 患者さんは | |
| 1.日常生活に支障がない時期、自宅で最期を迎えたいと思っていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. <u>最後の2週間</u> 、自宅で最期を迎えたいと思っていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3.予後のことを知りたいと言っていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4.遺言や社会的整理（財産分与の手続きやその他の引き継ぎ等）がなされていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5.医療者から、患者さんに、予後・余命は伝えられていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

次のページにおすすみください。

VI 患者さんの受けていた治療について伺います。

| 患者さんは | |
|-------------------------------|--------------|
| 1. チューブ類があるために動きにくいことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. 本人が希望して点滴をしましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3. 家族が希望して点滴をしましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4. 医療用麻薬は使いましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5. 床ずれ・傷の処置が必要でしたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 6. 尿の管の管理が必要でしたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 7. 吸引が必要でしたか？ | 1. はい 0. いいえ |

VII 患者さんの病状について伺います。

| 患者さんは | |
|--|--------------|
| 1. あなたが伝えたことを、患者さんがうまく理解できないことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. 在宅療養をはじめた頃、痛みは眠っている時にもありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3. 在宅療養をはじめた頃、痛みは動いた時にありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4. 在宅療養をはじめた頃、痛みのため、好きなことができないことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5. 在宅療養をはじめた頃、息苦しさはありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 6. 体のしんどさを訴えていましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 7. 食べることを手伝ったら、むせてしまったことがありますか？ | 1. はい 0. いいえ |

次のページにおすすみください。

VIII 患者さんの最後の2週間のことについて伺います。

| 患者さんは | |
|--------------------------------------|--------------|
| 1. 外出したくても、歩くことができず、外出できない状況がありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. 家の中でも、歩くことができなくなり、行動が制限されていきましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3. 飲酒や喫煙が病気の進行に伴いできなくなり、制限されていきましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4.夜になると目が覚めることがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5.昼間も食事や会話ができないほど眠っていることがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 6.痛みは眠っている時にもありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 7.痛みは動いた時にありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 8.痛みのため、好きなことができないことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 9.息苦しさはありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 10.口から食べることができましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 11.亡くなる前に、混乱したり、落ち着きがなくなることがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 12.亡くなる前に痰がからむことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 13.予想外の出来事が起こったことで、急に亡くなりましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 14.亡くなると説明をうけてから、回復をしましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

次のページにおすすみください。

IX あなたがうけた医師、訪問看護師からの説明について伺います。

| | |
|---|--------------|
| 1. 十分に説明のないまま、薬を投与されたことはありますか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2. 在宅療養中、詳しい病状の説明はありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3. 看取りの前に、医療者から具体的な起こりえる変化についての説明はありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4. 治療の選択に、患者さんの希望が取り入れられるように配慮していましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

X 訪問看護師の対応について伺います。

| | |
|---|--------------|
| 1.あなたの健康状態を、看護師が確認していましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 2.あなたの持病や、あなたが抱える症状について、看護師が対処法をアドバイスしましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 3.いつでも看護師に相談できる体制でしたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 4.あなたは、どんな時に看護師に連絡したらよいか迷うことがありましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 5.看護師に連絡したとき、看護師は、希望通りにすみやかに対応しましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 6.看護師は、患者のつらさをやわらげるように努力しましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 7.看護師は、介護者が自分の時間をもてるように、配慮していましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 8.在宅療養をはじめた頃、あなたの不安について、看護師は、確認していましたか？ | 1. はい 0. いいえ |
| 9.最後の2週間、あなたの不安について看護師は、確認していましたか？ | 1. はい 0. いいえ |

次のページにおすすみください。

XI 介護の経験を通して、あなたは

| | 全くそう思わない | そう思わない | あまりそう思わない | どちらともいえない | ややそう思う | そう思う | 非常にそう思う |
|-----------------------------------|----------|--------|-----------|-----------|--------|------|---------|
| 1. 人への感謝の気持ちをより強く持つようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 人のやさしさ、思いやりがより分かるようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 人とのつながりをより大切にするようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 私の人生に意味があるように思えるようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 5. 人生は悪いことばかりではないと思えるようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6. どんなことが起こっても、それには意味があると思うようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 7. 人生において、大切にしていけることがわかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8. 限りあるいのちを大切に生きていこうと、より思うようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 9. かけがえのない1日を生きることの大切さがわかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 10. どんな困難があっても大丈夫だと思うようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 11. この先しっかり生きていけると思うようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 12. 人生の変化を受け入れられるようになった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

次のページにおすすみください。

XII 介護をしたことで、あなたは

| | 全くそう思わない | そう思わない | あまりそう思わない | どちらともいえない | ややそう思う | そう思う | 非常にそう思う |
|--------------------|----------|--------|-----------|-----------|--------|------|---------|
| 1. 自分の時間や予定が犠牲になった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 2. 身体的な負担が大きかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 3. 精神的な負担が大きかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 4. 経済的な負担が大きかった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

次のページにおすすみください。

| | A(長男) | B(長女) | C(妻) | D(長男) | E(妻) | F(長男) | G(夫) | H(長女) |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年齢 | 64 | 58 | 80 | 43 | 71 | 61 | 65 | 36 |
| 性別 | 男 | 女 | 女 | 男 | 女 | 男 | 男 | 女 |
| 家族人数 | 3 | 2 | 2 | 3 | 4 | 5 | 2 | 2 |
| 主な介護者数 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 2 | 5 | 3 |
| 介護期間(日) 訪問介護期間 | 413日 | 70日 | 70日 | 42日 | 168日 | 90日 | 25日 | 25日 |
| 死別後インタビュー (日) | 144日 | 443日 | 443日 | 436日 | 225日 | 208日 | 409日 | 409日 |
| 最期の2週間のあなたの 健康状態 | 1.よかった | 1.よかった | 1.よかった | 1.よかった | 0.悪かった | 1.よかった | 1.よかった | 1.よかった |
| 最期の2週間夜眠れ ていたか | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ |
| 転倒したため、介護が困 難だったか | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ |
| 夜間のトイレの為に介護 がつらいと感じたか | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ |
| 介護を代わってくれる人 がいたか | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい | 1.はい |
| 食べることを手伝ったら、 むせてしまった | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ |
| 何を食べさせたら よいか困った | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい |
| 痰がからんだか | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ |
| 最期の2週間、入院させ たいと思ったか | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ |
| 看取りの説明があった | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい |
| 亡くなるまでの療養生活 は予想していた通りだった か | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい |
| 相談できる人がいたか | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい | 1.はい |
| いつでも看護師に相談で きる体制だったか | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい | 1.はい |
| どんなときに看護師に連 絡したら良いか迷うことが あったか | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 0.いいえ | 1.はい | 1.はい | 1.はい |
| 介護肯定感 | | | | | | | | |
| 人への感謝の気持ちをより 強く持つようになった | 5 | 7 | 6 | 4 | 6 | 5 | 7 | 6 |
| 人へのやさしさ、思いやり がより分かるようになった | 6 | 7 | 6 | 4 | 6 | 5 | 7 | 6 |
| 人とのつながりをより大切 にするようになった | 5 | 7 | 6 | 4 | 6 | 4 | 7 | 6 |
| 私の人生に意味があるよ うに思えるようになった | 6 | 6 | 6 | 4 | 5 | 3 | 7 | 5 |
| 人生は悪いことばかりで はないと思えるようになった | 5 | 5 | 6 | 4 | 3 | 4 | 6 | 5 |
| どんなことが起こっても、 それには意味があると思 うようになった | 6 | 7 | 6 | 4 | 6 | 4 | 7 | 4 |
| 人生において、大切にしてい くことが分かった | 5 | 7 | 6 | 5 | 6 | 4 | 7 | 6 |
| 限りあるいのちを大切に 生きていこうと、より思うよ うになった | 7 | 7 | 6 | 5 | 4 | 5 | 7 | 6 |
| かけがえのない1日を生き ることの大切さが分かった | 6 | 6 | 6 | 4 | 5 | 6 | 7 | 7 |
| どんな困難があっても大 丈夫だと思うようになった | 6 | 5 | 2 | 4 | 6 | 4 | 6 | 5 |
| この先しっかり生きていけ ると思うようになった | 6 | 6 | 5 | 4 | 5 | 4 | 7 | 5 |
| 人生の変化を受け入れら れるようになった | 7 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 7 | 5 |
| 介護負担感 | | | | | | | | |
| 自分の時間や予定が犠 牲になった | 3 | 3 | 5 | 3 | 5 | 5 | 1 | 1 |
| 身体的な負担が大きかっ た | 2 | 3 | 5 | 2 | 6 | 5 | 2 | 1 |
| 精神的な負担が大きかっ た | 2 | 3 | 5 | 2 | 6 | 6 | 2 | 1 |
| 経済的な負担が大きかっ た | 2 | 2 | 5 | 2 | 5 | 1 | 1 | 1 |

介護肯定感・介護負担感尺度

1:全くそう思わない 2:そう思わない 3:あまりそう思わない 4:どちらともいえない 5:ややそう思う 6:そう思う 7:非常にそう思う

【インタビューの内容】

1. あなたが、介護を振り返ったとき、つらかったと思うことを教えてください
2. そのつらかった内容の中で、一番つらいと思った内容を教えてください
3. つらかったときにどのように対処しましたか？
4. つらかったときに、何があなたの支えとなりましたか？
5. つらかった体験は、患者様の亡くなった後も、あなたにとっての後悔やつらさにつながっていますか？つながっていれば、具体的なつらさを教えてください
6. その逆で、つらかった体験が、あなたにとってプラスに変わったことはありますか？
7. 在宅における介護の負担感は、いま振り返って、あなたにとって達成感につながっていますか？
8. あなたのつらさを和らげるために訪問看護師としてどのような点を改善したらいいと思いますか？

【インタビューのカテゴリー内容】

| |
|---|
| A. つらかったと思う介護体験 |
| <p>1) 患者の状況に関する介護負担感</p> <ul style="list-style-type: none">・転倒をくり返した・痰がらみに苦しむ姿・食べられない状況・話ができなくなる事・回復すると信じていたが、回復しなかった・介護の時間が不規則（昼夜の区別がない）・一人で動けない状況下でのトイレ歩行の介助・医師から聞いていた予後よりも現状は長かった <p>2) 介護者の状況に関する介護負担感</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の時間がとれない・食事の支度等、生活における負担・身体がついてこない・不眠だった・いつまで介護が続くのか？ <p>3) 環境に関する介護負担感</p> <ul style="list-style-type: none">・住環境のために、うまくいかなかった排泄介助 <p>4) 人間関係に関する介護負担感</p> <ul style="list-style-type: none">・家族間での見解・意向の相違を調整すること |
| B. つらかったときの対処方法 |
| <ul style="list-style-type: none">・医師や看護師の緊急訪問を依頼・自宅にある物を利用して介護に役立てた・食べやすいように料理・医師や看護師に現状や見通しを常に確認・身体はつらかったが、本人の意向に合わせ対処・「人はこうなっていくんだ」と実感しながら対処 |

C. つらかったときの介護者の支え

1) 医療者とのかかわりに関する支え

- ・ 予後の告知があり、今後起こりうる事が明確になった
- ・ いいスタッフ（医師・看護師）との出会い
- ・ 困ったときの緊急訪問での手助け

2) 家族同士のかかわりに関する支え

- ・ 家族全員が患者の意向に沿いたいと一致団結していた
- ・ 家族間の連携
- ・ 家族の健康状態が良かったこと

3) 患者とのかかわりに関する支え

- ・ 患者の存在そのもの
- ・ 回復するという希望
- ・ 介護が普段の生活の延長上にあったこと

D. 患者の死後、後悔につながっているつらさの内容

1) 自己不全感に関する後悔

- ・ 十分に介護をやったと思えない（「自分で介護をやった」ことと「看護師によくやってもらった」ことでは達成感に違いが出てくると思う）
- ・ もっと自分にできることがあった
- ・ 看護師が行うケアに自分も参加したかった
- ・ もっと早く、自分が患者の病気に気づいてあげることができたらよかった

2) 患者の言動に関する後悔

- ・ もっと甘えてほしかった（もっと無理な要求をしてくれたらよかった。色々なことを患者は我慢していたのではないかと思う）
- ・ 医師から亡くなりそうだと聞いた時には、すでに話ができない状態だったため、普段から亡くなった後の話などをしていたらよかった
- ・ 料理などを一緒にしていたらよかった

E. 患者の死後、つらかった中でも、肯定的影響を与えた内容

1) 患者の安楽に関する内容

- ・穏やかな最期を家族で迎えられた
- ・訪問入浴や看護師の行なう身体ケアを喜んでいた姿をみることができた

2) 介護者自身のがんばり・自己成長に関する内容

- ・介護をやりきったことで、患者が死後も見守ってくれている感覚が今でもある
- ・薬の管理を自分でやれたため、症状もうまくコントロールできたと思う（以前、別のケースで体験した、がんでの苦しみが今回はなかった）
- ・患者がやりたいことを表出してくれたので、介護がやりやすかったし、患者の気持ちを全うさせることができた
- ・今回の介護の経験が別の介護や看取りに活かされた
- ・患者の死によって、自分自身が成長したと思える
- ・先祖のことを大切に思う気持ちが芽生えた
- ・人生をあらためて考えるきっかけになった

3) 家族間の連携に関する内容

- ・家族全員での看取りを通して、家族の一体感が生まれたことはこの上もない幸せ

4) 患者の存在の再認識に関する内容

- ・あらためて患者の存在の大きさを知った（社会的貢献をいかにしていたか？周囲に頼りにされていたか？等）

F. つらさを和らげるために訪問看護師へ改善してほしい内容

- ・最期の数日は看護師と密に連絡をとりたい（連絡をするタイミングが難しかった）